

「かみゆ」という社名には、

「紙を結う仕事を全うしたい」

という想いが込められています。

人類の歴史のほとんどの時代において、「紙」はもともとポピュラーなメディアでした。

考えや教えを普及するの、未知なる世界の道標となるの、

気持ちを通わし合うの、多くは紙の役割だったのです。

「紙を通して伝える」という行為には、人の叡智と願いと温もりが詰まっています。

現在、書籍や雑誌は斜陽のメディアと呼ばれていますが、

「伝える」行為が損なわれたわけではありません。

既存の紙媒体には、まだまだ多くの可能性が残されています。

また、紙によって培われた技や方法、そして想いは、

ウェブや電子媒体にも伝承されるべきだと考えます。

「紙」にかかわることにささやかな誇りと使命を感じながら、

真摯に懸命に、日々の仕事に取り組みます。

【「かみゆ」の語源（？）については、下記もご参照ください】

かみや【紙屋】 ①紙を漉き、製造するところ。その職人。また、紙を販売する店。②平安時代の官用の造紙所、「紙屋院」の略。図書寮^{ていしょきやう}の別所。

カミィテ【Canille】 フランス語圏の名前。男女ともに使用される。大天使カミエルが語源。①カミィユ・デミイラン^{「11940」}、フランス革命期のジャーナリスト。演説で「武器をとれ」と呼び、市民の蜂起を促す。②ジャン＝バティスト・カミィユ・ゴロ^{「1796」}。フランスの画家。現実と主観が交錯する風景画を多く残し、印象派への道を開く。③カミィユ・クロデル^{「1834」}。フランスの彫刻家。詩人。オーギュスト・ロダンの弟子となり、のちに恋仲に。

カミィ・ズン【Kanille Bidan】^{「97000」} アニメ「機動戦士Ζガンダム」の主人公。エウゴのパイロットとして、ガンダム Mk-II、次いでΖガンダムに搭乗。ガンダムシリーズにおいて、もっとも能力の高いニュータイプとされる。

カミィ【Albert Camus】^{「1900」} フランスの作家、劇作家、思想家。代表作に「異邦人」「ペスト」「シシュポスの神話」など。抗うことができない近代社会の「不条理」を描く。ノーベル文学賞受賞。

カミィ【CANUS】 ブランデー（ビヤック）のブランドの一つ。唯一残る家族経営によるコニャックメーカー、カミィ家によって製造される。ときに、「世界最高のコニャック」とも。

かみゆ【紙結】 日本の編集プロダクション、コンテンツ制作会社。2009年創業。歴史やエンタメなどのジャンルを得意とする。四ッ谷に事務所をかまえる。

れきしんしゅうぶ【かみゆの歴史編集部】 かみゆの歴史ブランドであり、ライター、イラストレーターとの制作共同体。おもな編著に「戦国武将 死に様列伝」「スガキリ 幕末」「鹿城をゆく（シリーズ）」「タイズで入門 戦国武将と女たち」など。

かみゆい【髪結】 髪を結うこと。また、それを職業とする人。

【補註】江戸時代は男だけに許された職業だったが、たびたびの禁令にもかかわらず、女髪結も多く存在した。

のていしゅ【髪結いの亭主】 妻の働きで養われている夫のこと。映画に「髪結いの亭主」(パトリック・ルコント監督)がある。